



東京都福祉サービス第三者評価結果報告書

福祉サービス第三者評価へのご協力、ありがとうございました。
評価結果(概要)について、ご報告します。



報告者・実施評価機関

- 株式会社ふくし・ファーム（機構04-134）
- 所在地:東京都東久留米市南町1-13-38
- 電話:03-3332-3334（担当:加藤）
- メールアドレス:fukushi-farm@servicehyouka.com
- ホームページアドレス:<http://servicehyouka.com/hp1/>

評価結果は、「とうきょう福祉ナビゲーション」で閲覧することが出来ます。

URL:<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/hyoka/hyokatop.htm>

評価結果は、インターネットを通じて広く公表されています。サービス選択の情報源として利用者様やこれから保育園を選ぼうとしている方たちに活用されています。



◎評価実施の流れ



項目	実施	備考
評価開始	2023 年 9 月	
利用者調査開始	2023 年 11 月	ご利用世帯に対するアンケート
保育園自己評価開始	2023 年 10 月	全職員へのアンケート
訪問調査	2024 年 1 月	経営層へのヒアリング、文書の確認等
評価終了	2024 年 3 月	東京都福祉サービス評価推進機構への評価結果の提出

◎評価結果

園が特に力を入れている取り組み

子どもが十分に身体を動かして楽しむことができるような環境設定を行っています

「体を動かすことが大好きで笑顔いっぱいの子ども」を保育目標のひとつに掲げ、子どもが十分に身体を動かして楽しむことができるよう環境を整えています。園庭には築山を備えるとともに、ネットを組み合わせた大型ジャングルジムを設置し、よじ登る・ぶら下がる・滑るなど、さまざまな動きを通して体幹を鍛えられるようにしています。また、2階部分には人工芝の屋上庭園を整備し、2階に保育室がある0・1・2歳児が安心して遊べるようにし、階下に降りる際は、大型スロープを利用して安全かつスピーディに出られるようにしています。

食育活動に力を入れ、さまざまな場において食への興味関心を育てています

園庭の横には広い畑があり、子どもたちが野菜を育てるとともに、収穫した野菜は料理に取り入れて皆で美味しく食べています。また、地域の特産品でもある稲城梨やみかん狩りに出かけ、身近な農産物に触れる機会も設けています。食育活動も積極的に取り入れ、1歳児から野菜に触れ、5歳児ではカレーづくりなどを行い、八十八夜や五味体験も行っています。給食室と廊下の境は大きなガラス張りになっており、子どもたちが毎日給食室を眺めながら、調理職員が働いている様子や食事を作っている過程を見ることで、食に対する興味関心を育むことができます。

研修やセルフチェックシートの活用により不適切保育を防止しています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則について、「職員として」という資料を作成し、事務室内キャビネットに保管するとともに、全職員に配布しています。「職員として」には、保護者対応・身だしなみ・園児への言葉かけ・職員同士の言葉かけなどの12の項目を設けて、職員に示しています。また、年1回セルフチェックシートを実施し、自己の言動や行動を振り返っています。実施後は、園長が集計し個別にフィードバックしています。そのほか、虐待に関する職員の理解を深めるために、市の虐待研修に参加し、対応方法について学んでいます。

◎評価結果<全体講評>

特に良いと思う点

充実した園庭での活動や地域との交流など、自然豊かな環境の中で、さまざまな経験を通じて子どもの世界を広げられるようにしています

起伏に富んだ丘陵地を生かした敷地に、子どもたちがのびのびと遊べる保育環境を整備しています。園庭には人工芝を敷いた2基の築山を備え、デザイン性あふれる大型遊具や砂場を設置しています。また、近隣の民家を訪問して、オープンガーデンにある植物や池の鯉を見学させてもらったり、消防署へ散歩に行った際は、消防自動車に試乗させてもらったりしています。さらに、近隣の牧場を訪れ、牛・うさぎ・にわとりなどと間近にふれあう機会も設けています。自然豊かな環境の中で、さまざまな経験を通じて子どもの世界を広げられるようにしています。

献立に日本各地の「郷土料理」を取り入れるほか、五味やお茶の飲み比べを行うなど、食に関わる活動に積極的に取り組んでいます

毎月の献立の中に各都道府県の郷土料理を取り入れ、日本地図を活用して場所やその土地の特産品を伝えています。地図には園のマスコットキャラクターの旗を立てるなど、子どもたちが楽しみながら食文化に関する知識と関心を深められるよう工夫しています。また、五味体験では実際に「甘味・塩味・うま味・酸味・苦味」を味わい、八十八夜では緑茶・玄米茶などの数種類のお茶を用意し飲み比べをしています。そのほか、昆布や鰹節などの出汁の味比べを行っています。食に関するさまざまな体験を通じ食への興味関心を育てています。

子育て支援事業「なかよしひろば」に加え、一時預かり事業や園庭開放を通して、地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んでいます

地域貢献の取り組みとして、子育て支援事業「なかよしひろば」を年20回程度(4月と8月を除く毎月開催)実施しています。具体的な内容として、離乳食講座・夏のスキンケア講座・クリスマスアレンジ講座・作って遊ぼうなどを開催しています。加えて、一時預かり事業や毎日園庭開放(9:30～11:30)を実施しています。そのほか、ポニーの乗馬体験などに地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒に楽しんでもらっています。このような活動を通して、共に協力して地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んでいます。

さらなる改善が望まれる点

事業継続計画(BCP)を作成するプロセスにおいて、リスクマネジメントについても改めて強化を図る価値が認められます

運営に係るリスクについて、リーダー会議で対策を検討しています。具体的な対策として、今年度避難訓練を見直しています。避難訓練の意味を再周知するとともに、様々なケースを想定して実施しました。今後は、ヒヤリハットの提出推進と分析方法を確立させていきたいと考えています。一方で、職員自己評価の「リスクマネジメント」に関する項目では、全ての項目において職員の理解が進んでいない状況が確認されました。事業継続計画(BCP)を作成するプロセスにおいて、リスクマネジメントについても改めて強化を図る価値が認められます。

職員の育成方針や研修内容について、作成中の中長期計画と連動していくことで、計画的に人材育成が行えると思われま

職員が受講した研修内容は研修報告書に記録し、必要に応じて職員会議で報告することで他の職員と共有しています。ただし、研修報告書については作成が滞っていたため、今年度、再度周知徹底を図っています。今後、園内研修の内容や実施方法について見直しを行うとともに、他園への見学を通して職員の意識を高めていきたいと考えています。職員の育成方針や研修内容について、現在作成中の中長期計画と連動していくことで、計画的に人材育成が行えると思われま

保育理念を実現するための保育手法について、マニュアルや手順書を作成し、標準化を図っていき

園の保育理念を「豊かな心と感性を育てる」、保育目標を「子どもの主体性を育てる保育・子ども一人一人の特性に応じた保育・自発的な遊びの中で子どもの力を引き出す保育・子ども同士の関わりを通し、コミュニケーション能力を育てる保育」と定め、主体性を育む保育の実践や地域交流の推進に取り組んでいます。ただし、保育に関するマニュアルは作成しておらず、保育手法についてはその都度職員会議などで話している状況です。今後、保育理念を実現するための保育手法について、マニュアルや手順書を作成し、標準化を図っていき